

現代的解釈の「琳派」展

24日まで秋田市で開催中

琳派をモチーフとした新しいデザインの試みを紹介する展示会「琳派に遊ぶ展」ひと筋の布に藝

が踊る」が今、JR秋田駅西口の「秋田公立美術大学サテライトセンター」(フォンテAKITA内)

で開催されている。

琳派とは、俵屋宗達や本阿弥光悦らが創始したとされる美術・工芸の流派。宗達や光悦と姻戚関係にあった江戸時代中期の絵師・尾形光琳が発展させたことから、その1文字を取って琳派と呼ば

れている。

今回の展示会は琳派400年に合わせ、あきた川反ルネッサンス・プロジェクト推進委員会と京都デザイン協会が主催するもので、同デザイン協会会員や協賛企業がそれぞれの解釈で琳派をイメージ、デザインしたタペストリー(縦250センチ×横45センチ)・28枚のほか、作品の柄をモチーフとした万華鏡・14本を展示している【写真】。

同展は今月24日まで、入場は午前10時〜午後8時。閲覧無料。詳しくは☎018・893・6128にお問い合わせを。

